川崎市CMコンテストで優秀賞

川崎市が募集した市のイメージアップCMコンテストで、ネットワーク情報学部2年次の松永陵太さんと王俊傑さんの作品「あなたの場所はどこですか?」が優秀賞に選ばれた。

12月12日にミューザ川崎で表彰式が行われ、阿部孝夫川崎市長から表彰状が授与された。

コンテンツデザインコースに学ぶ松永さんが、授業の一環としてCMコンテストに応募することとなり、1年次のときに同じクラスで「テレビCM好き」という共通点があったネットワークシステムコースに学ぶ王さんに声をかけた。

▲ 喜びの松永さん㊧と王さん（表彰式で）

「音楽のまち、工業都市」などさまざまな「顔」をもつ川崎市。幸区に住む王さんが、「外国人が多いイメージを打ち出したらどうか」と提案し、方向性が決まったが、初めてのCM制作は手探り状態だった。「撮影では、子どもたちの笑顔を引き出すのが大変でした。編集では、たくさん撮った映像はどれも捨てがたく、カットを選ぶのも苦労しました」（松永さん）。写真が得意な松永さんと、システム系が得意な王さんは、初めて使うソフトに戸惑いながら、それぞれの専門分野を生かして、夜遅くまで作業に取り組んだ。

「時間配分、音楽のタイミング、文字の見え方にもこだわった」という作品は、明るくゆったりした雰囲気のBGMが印象的。各国の子どもたちに、川崎の好きなところを母国語で書いてもらい、最後に「きっと見つかるあなたの場所」と文字が現われる。

今回の経験で、「CMを見る目線が変わり、今まで以上に熱心に見るようになった」という2人は、次回も一緒にチャレンジしたいと話している。

ネットワーク情報学部・学びの成果発信

吉田・飯塚プロジェクト

拡張現実感技術を用いた防災対策効果の可視化

ネットワーク情報学部3年次の吉田・飯塚プロジェクト（代表＝望月翔さん）は、「Disaster prevention―防災への3年次のアプローチ」を全体テーマとして「災害対策」、「被災者支援」、「減災の促進」の3つのテーマで研究を進めてきた。その内容が12月12日に生田キャンパスで行われたプロジェクト発表会（**1月号既報**）を見に来ていた㈱内田洋行の方に評価され、同16日に内田洋行ユビキタス協創広場で行われたAR技術交流イベントで土屋勇人さん、浦邉真寛さん、望月さんが「AR防災kit」を出展した。

AR防災kitを内田洋行AR技術交流イベントに出展

「Webカメラがあれば、マーカーのプリント代だけで済むので、学校での防災教育や住宅メーカーでの活用が考えられるといった評価をいただき、達成感があります」と話すのは浦邉さん。メンバーをまとめた望月さんは、「コンテンツデザインや、ネットワークシステム、情報分析の各コースから集まった21人は、それぞれ専門のこだわりによって意見がぶつかることもあったが、全体の動きをマネジメントする力を身につけられたと思います」と話している。

その他の成果物としては、携帯電話とQRコードを利用して、現場から災害状況をリアルタイムに更新できる「災害時情報マッピング」や大学生の防災意識向上を目的とした「おてがる防災動画」などがある。開発リーダーの綱島俊晃さんと喜島雅士さんは、「大学内でぜひ活用してほしい」と期待を話している。

▲ 福富忠和教授（右）とプロダクション・アイジーの平澤直氏

「コウサ展」陽庭（はるにわ）

新企画・異分野を交差させ4テーマで対談

ネットワーク情報学部の学生が企画・運営し、学外に学習の成果を発表する「コウサ展」（大倉基裕実行委員長・2年次）が1月30、31の両日、横浜市のBankART Studio NYKで催された。

6回目の今年は「陽庭」（はるにわ）がメーンテーマ。会場には3年次必修科目「プロジェクト」など18ブースを設置、来場者へのプレゼンを行った。

新企画として「カンファレンス」と題し、教員同士、教員と各専門領域で活躍するゲストによる対談を実施。「グラフィックデザイン×学習支援システム」など異なる分野同士を交差させた4テーマのトークが行われ、来場者たちはメモを取りながら、熱心に聴講した。

▲ 上平崇仁准教授と望月俊男講師の対談

学生部長賞

2年連続で囲碁部

顕著な活動を行ったサークルを表彰する学生部長賞に2年連続で囲碁部が決まり、1月27日、表彰式が行われ、嶋根克己学生部長から賞状と賞金が授与された＝**写真**。

金子太一代表（経営3）は「今年は団体戦で優勝したい」と抱負を語った。

子らの笑顔とらえる

海外「NGO」参加学生が写真展

NGO活動の成果を紹介する写真展が1月中旬、2週間にわたり生田キャンパスで開かれた。

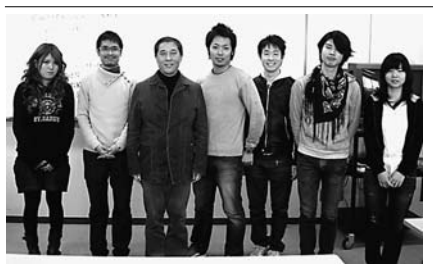
写真は、経済学部国際経済学科の専門科目「NGO論」（狐崎知己教授）の受講生12人が、アジア、中南米、欧州で昨夏撮影した16点。

▽メキシコ「貧困地域で生きる三つ子」（加藤理奈さん＝3年次）▽バングラディシュ「大好きな友だち」（鈴木香織さん＝同）▽カンボジア「アンロンコン学校の子どもたち」（高橋壱聖さん＝同）など、活動中に出会った人々の一瞬がとらえられている＝**写真**。

学生たちは出発前の授業で、プロカメラマンから、被写体との関係の築き方などを学んだ。

写真展では▽自己満足の援助をやめる▽自立支援に役立つ活動▽出口戦略を明確に…などNGOへの提言も示した。

長期交換留学生（第1期）に6人



氏名・留学先は以下のとおり＝敬称略。

●リュミエール・リヨン第2大学（フランス）▽細見由佳（経済2）▽天田昂太（二部経済2）

●マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）▽大屋登美雄（院文修1）

●ウーロンゴン大学（ニュージーランド）▽秋葉祐紀（法2）▽大木勝博（同）▽吉田有里（文2）

サークル情報

◆マジックサークル「内幸町ホール文化祭」に出演

▽日時：3月2日（火）18時30分開演

◆写真研究会「学外展」

▽日時：2月16日（火）～21日（日）11時～19時（最終日は17時）▽場所：GALLERY LE DECO 6 F

漫画研究同好会

NewGround 新しい見方 ㊶

中村　大祐（文2・ジャーナリズム研究会）

それぞれの受験とその後

近ごろ、電車などで英単語帳や参考書に目を通している人たちをよく見かける。彼らを見ると、世間は受験シーズンと呼ばれている時期であることを実感する。また自分自身も同じ経験をしたという記憶が若干の懐かしさとともによみがえってくる。私にとって、それはもう2年も前の話だ。

今思い返してみると、あの時の受験勉強は一体、何のための勉強だったのかと思うことがある。当時は必死で、余計なことを考えている余裕がなかったので何とも思わなかったが、目先の試験にとらわれすぎていた気がしてならない。受験のためだけの勉強、少なくとも大学に入ってから先のことは何一つ考えてはいなかった。

今年の受験生にも、私と同じような考えの人が大勢いるのではないかと思う。はっきりとした目的もなく、とりあえず進学するために受験する人は多いだろう。もしそういう人がいるとしたら、進学した後、その大学で何をするのかを考えてみよう。大学という場所は自由であるから、勉強を強制されることがない。だからこそ、自ら学ぶ姿勢をもって自発的に行動しなければ、せっかくのキャンパスライフを無駄にしてしまうことになりかねない。

私は幸運にも、大学に入った後にやりたいことを見つけ、勉強する意義を得ることができた。それと同時に、目的を持って勉強することが、いかに大切なことであるかも学ぶこともできた。

4月になれば専修大学にも多くの新入生が入学してくる。私が彼らに言いたいことは一つ、何か目標を持って勉強をしてほしい。それだけで、大学生活はとても有意義なものになるからだ。

▲ 神田キャンパスで（2月1日）